

2019 年度 第 2 四半期決算 主要な質問に対する回答

Q: 2019 年度第 2 四半期累計実績について総括していただけますか？

A: 2019 年度第 2 四半期累計の売上収益は、為替が前年比で円高となる中で、対前年同期比 2%減の 4,806 億円、調整後営業利益は対前年同期比 16%減の 450 億円、利益率は 9.4%となりました。そのうちマイニング新車販売の売上は 18%増となり、マイニング全体の売上は 810 億円で対前年同期比 6%増となりました。

財務面では、棚卸資産は、前年度末比で 35 億円増加の 3,283 億円となりました。手持日数で見ますと、営業債権は前年度末より 7 日短縮の成果でしたが、棚卸資産は 2 日延伸の 117 日となり、正味運転資金手持日数は前年度末よりも 8 日延伸した 163 日となりました。この影響で有利子負債が前年度末よりも 362 億円増加し、資本合計も主として為替円高影響による在外活動営業体*の換算差額により 123 億円減少しました。

キャッシュ・フローについては、営業キャッシュ・フローは前年同期比では 370 億円の改善、第 2 四半期 3 か月では棚卸資産キャッシュ・フローと共に黒字化していますが、第 2 四半期 6 か月累計では未だ 97 億円の支出超過、また投資キャッシュ・フローの支出増加もあり、フリーキャッシュフローは 292 億円の支出超過となりました。

*在外活動営業体 (Foreign operation) : 所在国以外の国又は所在国の通貨以外の通貨にその活動の基盤を置く子会社、関連会社、ジョイント・ベンチャー又は支店

Q: 2019 年度見通しについて総括していただけますか？

A: 2019 年度の市場見通しとしては、全世界の油圧ショベル需要は第 2 四半期の状況を反映し、前回 7 月時点の見通しから 5 千台減少の前年度比 $\Delta 3\% \sim \Delta 8\%$ になる見込みです。一方で、マイニング機械需要は前回 7 月同様、ほぼ前年度並になると見込んでいます。業績見通しは、年度当初発表を据え置き、売上収益は 9,500 億円(前年度比 8%減)、調整後営業利益は 860 億円(前年度比 26%減)、親会社株主に帰属する当期利益は 480 億円(前年度比 30%減)を予想します。予想為替レートは、当社は海外事業比率が高く、様々な地域の通貨での決済を行っていることから、通貨毎の想定変動レンジの下限をとっており、米ドルは 100 円、ユーロは 110 円を据え置きますが、元は 15 円から 14.5 円へ、豪ドルを 77 円から 70 円へ修正します。

中期経営計画「Connect Together2019」の最終年度にあたり、バリューチェーンの深化を図り、経営効率を上げ、先進技術開発や IoT 関連の研究開発を推進し、これらの施策を遂行する為に必要な投資や間接費支出も、売上収益増加率とのバランスをとりながら進めて参ります。

Q: 建機の需要環境の見方についてもう少し詳しく教えてください

A: 当社の主力製品である油圧ショベルの世界需要は、2019 年度第 2 四半期では、中国・アジア大洋州・中近東・欧州では前年に比べて減少、日本、北米、ロシア CIS では増加しました。2019 年度の通期では、中国・アジア大洋州・欧州等の先行き不透明感のある市場の減少を織り込み、2019 年 7 月時点の想定から 5 千台引き下げて、世界全体で 8%減の 21 万 7 千台で業績を想定しています。

Q: マイニング機械の需要環境と受注状況について教えてください

A: 当社として「マイニング機械」に区分する、運転質量 100 トン以上の超大型油圧ショベルと積載質量 150 トン以上のダンプトラックの 2019 年度の需要は前年度並の水準となる見込みです。特に大手鉱山向けの超大型油圧ショベルとダンプトラックについては、引き続き旺盛な引き合いを頂いており、今年度に関しても堅調な状態が続く見通しです。なお、第 2 四半期末時点で、2019 年度の当社マイニング売上見通しのうち、油圧ショベルは約 6 割、ダンプトラックは約 9 割が受注済みです。